

論文の内容の要旨

論文題目 ハノイ旧市街の「職業の通り (phố nghề)」の変容メカニズムに関する研究

氏 名 柏原 沙織

本論文は、ベトナム・ハノイ旧市街の同業者が集積する「職業の通り」を、都市アイデンティティの源泉となる「動的な無形要素」と位置づけ、その長期的・短期的な変容のメカニズムを明らかにすることで、変化を内包する歴史地区の商業空間において、動的な要素をいかに維持・継承しうるのか、マネジメントに向けた示唆を見出そうとするものである。

各章の要旨は以下のとおりである。

序章では、ハノイ旧市街の「職業の通り」が既存の文化遺産の範疇から外れつつも、動的な無形文化遺産価値が見出せる歴史的な商業空間であることを踏まえたうえで、現在の都市遺産マネジメントにおける論点を抽出し、職業の通りの分析から動的な無形要素のマネジメントに向けた示唆を得ることの意義を提示した。

研究目的として、ハノイ旧市街の地区全体レベルでの職業の通りの変容プロセスの解明、通りレベルでの職業の通りの変容メカニズムの解明、旧市街への貢献という観点からの職業の通りの価値の再定義、ハノイ旧市街の今後のマネジメントへ向けた示唆の提供、の 4 点を挙げた。

ハノイ旧市街の町並み保全に関する既往研究のレビューより、本研究の新規性として、無形要素に着目し、1989 年～2017 年のハノイ旧市街の保全の枠組みの発展を分析する点、複数時点の同業者集積の分布から変容を分析・類型化を試みる点、現代化した集積も含めて地区との関係から職業の通りの都市遺産価値を検討する点、通り名の職業から変化した通りの短期的な集積の転換メカニズムを分析する点、の 4 点を挙げた。

第 1 章では、ハノイ旧市街の職業の通りの背景として、旧市街の都市形成史および商業地区としての発展の歴史と、コミュニティの変遷の歴史を含む社会的背景を把握するとともに、それらが職業の通りへ与えた影響を整理した。

都市形成史については、封建時代の骨格に植民地期に道路の新設・街区の細分化の操作

が重ねられた流れとともに、経済活動に重要な役割を果たしていた水系の変容、市の位置を把握した。

商業地区としての発展史では、シタデルの需要を満たすため職人集落からの移住者が集まったギルド由来の職業の通りの起源に始まり、シタデルからの経済的自立を経て、植民地期の新たな需要・競争環境による新規職業の集積・職業の衰退などの影響を受けながら継続して発展したこと、計画経済期の職業の通りの衰退と伝統的手工芸の技術の断絶、ドイモイ政策導入後に活発な商業地区として再興するまでの流れを記述した。手工芸ギルドや商業組織が失われた今、多くの職業の通りはかつての製造販売ではなく、販売のみを手掛ける個人店舗の集合となっている。

ハノイ旧市街のコミュニティは、集落由来のギルドに始まり、15世紀以降の中国人の流入、1954年以降の社会主義化による富裕層の流出、空き家や既存住宅の国家による再分配、1978年の中越戦争による中国人の流出、1990年代の経済成長に伴う新規参入者の増加、といった転換点を経て入れ替わっている。1954年以降の町家の集合住宅化により複雑化した所有権は、居住世帯間の合意形成を阻む形で建物の建て替えを抑制し、結果として特徴的な敷地割を残している。

以上より、ハノイ旧市街の職業の通りは時代の変化の中で主要な顧客層の変化も取り込みながら継続して発展し、商業の衰退期を経ても同業者集積という商売形態が復活したという流れ、また小規模事業者の集合という特徴を指摘した。地区全体としては、コミュニティの断絶を経ても商業中心としての地位を維持・再興してきた商業地区であること、都市構造の特徴として封建時代から続く道路網と細かな街区割を指摘した。

第2章では、ハノイ旧市街の職業の通りを取り巻く保全の枠組みについて、国・市レベルの地区保全・無形文化遺産保護の枠組みを概観したうえで、ハノイ旧市街の無形要素の保全の仕組みと取組の発展を整理し、到達点と課題を明らかにした。以上を踏まえて、ハノイ旧市街の職業の通りの今後のマネジメント向上に向けて明らかにすべき点を指摘した。

国・市レベルでの無形文化遺産の保全では、文化遺産法に示された静的な要素の保全に加え、動的な無形要素では職人集落の支援が商工政策を中心に行われているが、政策上は職業の通りとの関連は見出されていない。

ハノイ旧市街の無形要素の保全に関する仕組み・取組の発展状況は、第1期：有形要素の保全に向けた基盤整備と無形要素への意識の萌芽期、第2期：有形要素保全の事業化の進展と無形要素の調査期、第3期：有形・無形要素の統合の模索期、に分けられた。

ハノイ旧市街の特徴である動的な無形要素への意識は第1期の調査提案の一部で提起され、第2期で初めて法規文書に反映された。第2期には無形文化遺産が注目を集め、都市間協力事業の中で仏・越両国の関係者による静的・動的な無形要素の調査研究が大きく進展した。国家遺跡指定の際には、職業の通りの由来と都市空間の形成過程を絡める形で、文化的・建築的価値への認識が初めて示された。第3期にはマスタープランレベルでの初

の無形文化遺産への言及を経て規制の中で具体化され、伝統的な職業の通りの生産活動への支援が明記されるという形で発展した。

現在の仕組み・取組の到達点を指摘した後、ハノイ旧市街の職業の通りのマネジメント上の課題として、地区全体の価値に貢献する要素としての職業の通りの価値の再定義、用途への介入に向けた変化の許容範囲の検討、同業者集積の維持に向けたマネジメント対象の検討、商業活動の振興手法の検討、の4点を抽出した。

第3章では、ハノイ旧市街全体の職業の通りにおける集積職業の転換プロセスを明らかにすることで、職業の通りの価値の再定義、用途への介入に向けた変化の許容範囲の目安について検討した。

未公開の植民地期の統計1次資料も活用しながら、植民地期前から2017年まで10時点間の職業の通りの変遷を追い、同業者集積という商売形態と、多様な職業の通りが地区内に複数存在するという特徴は社会経済的な転換点を超えて維持されてきたことを実証した。

通りレベルでの長期的な変化パターンを分類し、「通り名の関連職業の維持」「新規職業の集積の形成・定着」「植民地期まで通り名の職業・職種の集積の維持」「直前の職業と関連しながら変化」「転換後に特定の同業者集積が継続（ドイモイ前／後）」「職種内の職業への転換の連鎖」「変化が継続」の7類型を得た。この整理から、職業の通りにおける集積変化の強度と速度という軸を導き、既存の枠組みにおける「職業の通り」の基準である伝統的職業に加え、歴史に根差しながら変化したものなど職業の変化が小さいものを保全型マネジメントの対象とする可能性を提示した。

以上から指摘されるハノイ旧市街の職業の通りの価値は、「変化を内包しつつ独自の価値を継承する動的なシステムとして機能することで、地区全体の特徴を維持している点」にある。個々の通りで場所と活動が結びついたシステムが、時代を経て継承・再生産されていく状況は、職業の通りが動的なシステムとして機能していることを示しており、この職業の通りの中核にあるのが、同業者集積のメカニズムである。

集積と都市構造の関連として、小さな道路で細かく分けられた街区割が集積範囲を規定するとともに、通りの集積転換が起こる際の単位となっている可能性を指摘した。

第4章では、職業の通りの維持・再生産の中核を担う同業者集積の転換メカニズムの仮説を構築し、職業の通りのマネジメントの対象、施策の方向性について検討した。

第3章で得られた類型のうち、直前の職業と関連しながら集積が変化してきた Hàng Đào 通り、ドイモイ前に転換した職業の集積が継続している Hàng Buồm 通り、ドイモイ後に転換した職業の集積が継続している Lương Văn Can 通りの事例研究から、長期的な転換の状況の記述とともに、各通りの商業の実態と短期的な集積転換プロセスを明らかにした。以上に既往研究の知見も加味して、職業の通りにおける集積転換の仮説的メカニズムを構築した。

集積転換メカニズムはブーム期、淘汰・ブランド化期、ブランド強化期、転換期、の段階に分けられ、参加主体として既存住民、既存商業者、新規参入者、観光客の4者が挙げられる。各主体の変化への関わり方を描写した。

商業者にとっての同業者集積の普遍的価値として、「競争的環境の中で、切磋琢磨した結果生き残った優良店舗の集合」というプロセスを連想させることで、その通りにおける特定の商品・職業の品質保証を獲得する点を示した。場所に結びついた職業への誇りが商店主の中に内面化されている状況が、職業の通りに埋め込まれた活動一場所のつながりの核といえる。多くの通りで商業組織がなくなった現在、集積は個々の商業者が見出す価値に依存するが、新たに形成されつつある集積の一部ではその意味が変質している可能性を指摘した。

以上より、マネジメントへ向けた示唆として、集積転換メカニズムにおける現状把握のための基礎となるデータベース構築とモニタリング体制の整備、職業の通りにおける集積の質を把握するための参加型機会の確保、淘汰期以後の新規参入者の誘導策の準備、既存店舗における観光需要の取り込み支援、職業の通りのマネジメント方針の決定、変化の強度のコントロールという目安設定、の6点を提示した。

結章では、第1章～4章で得られた知見を整理し、総合考察としてリサーチクエスションへの回答を示すとともに、ハノイ旧市街の今後のマネジメント策構築に向けた方針の示唆としては、同業者集積の価値の多角的な把握、集積状況のモニタリングと変化段階の見極め、集積の維持に向けた直接・間接的支援、商業活動への介入に向けた変化の許容の目安等を示した。最後に、都市遺産マネジメントへの知見と本研究の貢献および今後の課題を整理した。